

第二部 罪の告発

イザヤ 1 : 2~31

1. 神はイスラエルが契約を破ったことを告発し、神の法廷に引き出す (1 : 2~9)
 - a. 2~4 節 神の法廷、被告はイスラエル、天と地が証人として呼び出される

天よ、聞け。地も耳を傾けよ。主が語られるからだ。

「子どもたちはわたしが育てて、大きくした。しかし、彼らはわたしに背いた。牛はその飼い主を、ろばは持ち主の飼葉桶を知っている。しかし、イスラエルは知らない。わたしの民は悟らない。」

わざわざだ。罪深き国、咎重き民、悪を行う者どもの子孫、墮落した子ら。彼らは主を捨て、イスラエルの聖なる方を侮り、背を向けて離れ去った。

申命記 4 : 26 私 (モーセ) は今日、次のことで、あなたがたに対して天と地を証人に立てる。(30 : 19、31 : 28、32 : 1)

申命記は神とイスラエル民族との契約の書、契約の証人は天と地であった。なぜなら、イスラエル民族は、天から神の声を聞き、地の上でシャカイナ・グローリー、神の臨在を示す栄光を見たからである。天と地は、いつもイスラエル民族とともにある。天を仰ぎ、地を見るときに、常に神を思い出すことができる。ゆえに、天と地が証人である。

子どもたち・・・イスラエル民族を指す (出 4 : 22~23、申命記 14 : 1)

- b. 5~9 節 裁判の冒頭で：イスラエルの荒廃した現状はイスラエルが契約を破り、罪を重ねてきた結果である。神からの罰を受けながら、まだ罪を続けている

あなたがたは、反抗に反抗を重ねてなおも、どこを打たれようというのか。頭に残すところなく病み、心臓もすべて弱っている。足の裏から頭まで、健全なところはなく、傷、打ち傷、生傷。絞り出してももらえず、包んでももらえず、油で和らげてももらえない。あなたがたの地は荒れ果て、あなたがたの町々は火で焼かれている。土地は、あなたがたの前で他国人が食い荒らし、他国人に破壊されたように、荒れ果てている。しかし、娘シオンは残された。あたかも、ぶどう畑の小屋のように、きゅうり畑の番小屋のように、包囲された町のように。もしも、万軍の主が私たちに生き残りの者をわずかでも残されなかったなら、私たちもソドムのようになり、ゴモラと同じようになっていたであろう。

2. イスラエルは神との契約を守り、モーセの律法に従って神を礼拝しているように見せかけているが、それは形だけである（1：10～17）

- a. イスラエルがしているのは、無益な礼拝（1：10～15）

聞け。ソドムの首領たちよ、主のことばを。耳を傾けよ。ゴモラの民よ、私たちの神のみおしえに。

「あなたがたの多くのいけにえは、わたしにとって何になろう。—主は言われる— わたしは、雄羊の全焼のささげ物や、肥えた家畜の脂肪に飽きた。雄牛、子羊、雄やぎの血も喜ばない。あなたがたは、わたしに会いに出て来るが、だれが、わたしの庭を踏みつけよと あなたがたに求めたのか。もう、むなしいささげ物を携えて来るな。香の煙、それはわたしの忌み嫌うもの。新月の祭り、安息日、会合の召集— わたしは、不義と、きよめの集會に耐えられない。あなたがたの新月の祭りや例祭を、わたしの心は憎む。それはわたしの重荷となり、それを担うのに疲れ果てた。あなたがたが手を伸べ広げて祈っても、わたしはあなたがたから目をそらす。どんなに祈りを多くしても聞くことはない。あなたがたの手は血まみれだ。

- b. 神が求めるのは、3つのステップ。イスラエルが先ず罪を告白して清められること、その次に悪い行いから離れること、そして最後に、良い事を行うこと、みなしごややもめを守ってやること。これが真に有益な礼拝である（1：16～17）

洗え。身を清めよ。

わたしの目の前から、あなたがたの悪い行いを取り除け。悪事を働くのをやめよ。

善をなすことを習い、公正を求め、虐げる者を正し、みなしごを正しくさばき、やもめを弁護せよ。」

3. 論じ合おうとの招き、清めの恵みを提供しようと神が呼びかける（1：18～20）

「さあ、来たれ。論じ合おう。—主は言われる— たとえ、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとえ、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。あなたがたは、もし喜んで聞こうとするなら、この地の良い物を食べることができる。しかし、もし拒んで背くなら、剣に食い尽くされる。—主の御口がそう語られる。」

4. しかし、イスラエルは清めの恵みを拒んだ。その結果、エルサレムが荒廃する（1：21～23）

どうして遊女になったのか、忠実な都が。公正があふれて、義がそこに宿っていたのに。今は人殺しばかりだ。おまえの銀は金かすになった。おまえの良い酒も水で薄められている。おまえの君主たちは強情者、盗人の仲間。みな賄賂を愛し、報酬を追い求める。みなしごを正しくさばかず、やもめの訴えも彼らには届かない。

5. イスラエルは裁かれるが、回復される（1：24～31）

「それゆえ一万軍の主、イスラエルの力強き者である主のことば— ああ、わたしは逆らう者に思いを晴らし、わたしの敵に復讐する。わたしは、わが手をおまえに対して向け、おまえの金かすを灰汁のように溶かし、その浮きかすをみな除く。こうして、おまえをさばく者たちを以前のように、おまえに助言する者たちを最初のようにする。その後、おまえは正義の町、忠実な都と呼ばれる。」（□①）

シオンは公正によって贖われ、その町の立ち返る者は義によって贖われる。（□②）
背く者と罪人はともに破滅し、主を捨てる者は消え失せる。まことに、彼らはあなたがたが慕った榿の木で恥を見、あなたがたは自ら選んだ園によって屈辱を受ける。あなたがたは葉のしおれた榿の木のように、水のない園のようになるからだ。強い者は麻屑に、その行いは火花になり、二つとも燃えさかり、これを消す者はいない。

強い者＝偶像を製作する者たち

その行い＝偶像を製作する者たちの手のわざ＝偶像そのもの

二つとも燃えさかり、これを消す者はいない＝偶像を製作する者たちも偶像そのものも火によって破壊されるであろう

- ① エルサレムが正義の町、忠実な都と呼ばれるのは、いつのことか？
メシアの王国が到来するときである。

- ② 「公正によって贖われ、義によって贖われる」とは、どういう意味か？
贖うとは、買い戻す、身代金を払う、といった意味である。
イザヤ1章では、その具体的な意味内容はまだ明らかにされていない。
53章において預言される。メシアの死、その血が代価である。